

教育長室からのお知らせ No. 80(令和4年3月)



教育長 田中 康寛

行きつ戻りつではありますが、穏やかになってきている日差しに春を感じる季節となりました。年度という区切りを迎えようとしている中であっても、新型コロナウイルス感染症が未だ影響を及ぼしており、オミクロン株による第6波では感染者が高止まり傾向にあるようです。職場でも家庭においても、引き続き感染防止に十分に注意してまいりましょう。

2月市議会定例会において、教育委員会を代表し、令和4年度の教育行政運営方針を述べさせていただきました。そこで掲げた小中一貫教育の推進について、2つの小中一貫型小学校・中学校の取組を紹介します。まず、令和3年4月からスタートした「(通称)東国分爽風学園」についてです。1つの教育目標のもと、前号でお知らせしたとおり、乗り入れ授業やオンライン合同集会などが実施されています。中学校の先生の授業を受けた児童からは、「授業がわかりやすかった」「算数をもっと好きになった」などの肯定的な意見が多くあり、授業をした教職員からは前向きな意見がありました。児童生徒にだけでなく、教職員にとっても効果的な取組であると思います。次に、令和4年4月から高谷中学校、信篤小学校、二俣小学校の3校によりスタートする「(通称)信篤三つ葉学園」についてです。通称名の「信篤」には歴史と伝統を守り、継承してほしいという想いを、「三つ葉」には3校の児童生徒が協力し助け合い、未来に向かって成長してほしいという想いが込められています。今後は3校共通の教育目標を掲げ、3校の教職員が話し合いながら、小中一貫教育の取組を進めていくこととなります。

教育委員会では、子どもたちに質の高い教育を提供するため、全市的に小中一貫教育を推進しており、このような考えのもと、義務教育学校「塩浜学園」や2つの小中一貫型小学校・中学校の設置、中学校ブロックを単位とした学びと育ちの連続性を確保するための取組を進めています。校長のリーダーシップのもと、本市で働くすべての教職員が小中一貫教育に対する理解を深め、義務教育9年間を一体と捉えて日々の教育活動を行えるよう努めてまいります。

市内公立学校におきまして、小学校1年生から3年生を含めたすべての児童生徒へ学習用端末の配付が完了しました。コロナ禍でも学びを止めないためには、オンラインの活用が不可欠です。各学校では、小学校4年生以上の学年について、感染不安等で欠席の児童生徒に向けては教室の様子のライブ配信、また、学級閉鎖や学年閉鎖、休校中の児童生徒に向けては学習用端末によるオンライン指導に取り組んでいるところです。ICTの活用により、教職員の指導の幅を広げてまいります。

このように、教育委員会では学びを止めない決意のもと、各学校への指導・助言を行っていますが、子どもの安全・安心の確保は言うまでもありません。子どもたちが楽しみにしている学校行事や活動もあろうかと思しますので、各園・学校においては、それらの目的を明確にして、アイデアを出し合い、好事例を参考にすることで、子どもたちの成長の機会を可能な限り確保できるよう、適時適切な対応に努めてまいります。

新型コロナウイルスの感染拡大により、対面での十分な指導が難しい状況ではありますが、子どもたちが自身の成長を感じ、4月からの新たなスタートを確かな1歩で踏み出せるよう、年度の締めくくりに向けた指導を行ってまいります。